

小 学 校 中 学 年	テーマ	身近にある老いと病		
	ねらい	身近な人の老いにふれたり、病について知ることによって、命のかけがえのなさを実感する。		
	指導のポイント	事前	学習・体験	事後
	<p>【感動の体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者とのふれあいを通じて、自分が他人を元気づけることができることを体験させる。 ・高齢者の人生経験の豊かさ等に気づかせ、尊敬の念を持たせる。 ・いろいろな生き方にふれることにより、生きていることの素晴らしさを感じさせる。 <p>【感性を育む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者とのふれあい体験をとおして老いることを理解させる。 ・絵本等の読み聞かせをとおして、老いの豊かさや病に立ち向かう人々を知り、人間の素晴らしさを感じさせる。 <p>【想像力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人との関わりをとおして、老いるということに気づかせる。 ・病気に負けずに闘病する人や、それを支える周りの人々について知り、人間の勇気やたくましさを感じさせる。 ・高齢者の話を聞くことにより、誰にでも老いは訪れることを感じとらせる。 	<p>【先生の準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中だけでなくすべての教育活動の中で、命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。 ・教員自身の死に対する思いをまとめる。 ・教員自身が人生の振り返りを行っておく。 ・事前に関連施設との十分な打合せを行う。交流が一時的なものにならないように工夫する。 ・現在悲嘆にある子どもが存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定するなど、事前事後の個別指導を充実させる。 ・子ども一人ひとりを把握し、学級内の人間関係を掌握しておく。 ・家庭・地域との連携の上、学習や体験内容に配慮する。 <p>【教育課程上の位置づけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会 ・道徳 ・総合的な学習の時間 <p>【子どもたちの準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの高齢者との関わり方の体験を思い出す。 ・病院へのお見舞いの体験等を思い出す。 ・自尊感情を高める体験をする。 <p>【家庭・地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ授業内容を伝え、家庭でも話題にするなど積極的に関心を持ってもらう。 	<p>インスタント・シニア体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手足におもりをつけて活動する。 ・ゴーグルやゴム手袋をつけて活動する。 <p>老人福祉施設等との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌や劇等学習成果を見てもらう。 ・一緒に折り紙などの作業を楽しむ。 ・介護のお手伝いをする。 <p>読み聞かせ</p> <p>高齢者とのふれあいや別れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本『おじいちゃん』（ほるぷ出版） ・絵本『おばあちゃんといつもいっしょ』（岩崎書店） ・絵本『ぶたばあちゃん』（あすなろ書房） ・絵本『わすれられないおくりもの』（評論社） <p>闘病する人々や支える人たち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『種まく子どもたち』（ポプラ社） ・『ゆたかな命のために ホスピスで出会った生と死』（偕成社） ・『電池が切れるまで』（角川書店） ・『命の尊さを考える-生と死を学ぶ読み物集-』（鹿児島県教委） <p>ゲストティーチャーの話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者から昔の暮らしや遊びなどについて聞く。 ・老人福祉施設等の介護士などから話を聞く。 ・医療施設等で働く人などから話を聞く。 	<p>【子どもたちの予想される心の動き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りには物知りだなあ。 ・おじいちゃんはいろんな出来事に出会って生きてきたんだ。 ・病気にだって負けないぞ。 ・子どもが死んじゃうと、親はこんなに悲しいんだ。 ・おばあちゃんを大切にしよう。 ・お年寄りの手助けをしよう。 <p>【振り返りカードへの記入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習・体験の後に、子どもたちに自分の心の動きを振り返らせ、振り返りカードに記入させる。 <p>【日常生活での実践・家庭との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材及び子どもの感想などをまとめて家庭に配布するなど学習や体験の成果を知らせる。 ・高齢者を敬い、進んで交流する。 ・学校行事や地域行事でふれあった高齢者等との交流を続けていく。 <p>【先生の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と心が通い合う交流ができたか。 ・いろいろな生き方にふれることにより、生きていることの素晴らしさを感じさせることができたか。 ・子どもたち一人ひとりの心の動きを十分にとらえることができたか。 ・虚無感や死に対する過度の恐怖心を抱かせることはなかったか。